

職務経歴書

2025 年 5 月 14 日現在

基本情報

Title	value
名前	田上宗明 (Tanoue Somei)
生年月日	1991 年 3 月 12 日
居住地	福岡県

職務概要

2015 年 4 月に本田技研工業株式に入社して 7 年間、システムエンジニアとして生産技術関連のソフトウェア開発を推進。技術・プロジェクト工程・役割・開発プロセスらについて幅広い経験を積む。

2022 年 9 月から Sansan 株式に入社し、請求書管理 SaaS の開発に携わる。具体領域としては仕訳、請求書管理といった機能の開発や運用負荷低減プロジェクトに関与。役割としては、開発実務を推進しつつ、プロジェクトマネジメント・チームビルディング・チーム単位のマネジメントを担当。

強み・自己 PR

- ・ 企画・仕様検討・整合から実際の設計・開発・導入・運用までの一貫した経験があります。この経験により、広域的なステークホルダーのコミュニケーションやリーチの広い視点での統合的なプロセス改善が得意です。
- ・ 開発プロセスの経験の幅（ウォーターフォール・スクラム・カンバン）があり、それらへの理解も一定以上のものがあると自負しています。ウォーターフォールについては組織の標準プロセスおよびドキュメントフォーマットの策定を行いました。スクラムにおいては組織導入のパイロットチームへの参画&組織展開を推進しました。カンバンは導入の提案から定着までを推進し、現在では私がプロセス改善を指導する際の[第一候補](#)となっています。
- ・ ステークホルダー・組織を巻き込みながら仮説検証サイクルを高速で回して状況をカイゼンしていくことが得意です。具体的には、2Way の意思決定を重視する態度と方針の合意形成、助言プロセスの採用による透明性・視点の多様性・コミットメントの確保、を軸とした進め方を得意とします。[事例記事](#)
- ・ プロジェクトマネジメント・リーダー及びチームマネジメント・リーダーの継続的な経験があります（最大 6 名規模）。プロジェクト面では、進捗管理・ステークホルダーとの合意形成・価値を中心にしたスコープ管理・品質の維持、といった観点を重視します。

チーム面では、リードするリーダーシップとサーバントリーダーシップの使い分け・事業要請からくる開発速度とチーム&メンバーの成長のための投資のバランスや使い分け、といった観点を重視します。

テクニカルスキル

- 主な開発言語 (直近で触れた順) : Kotlin (2.5 年)、TypeScript・React (3 年)、C# (3.5 年)、Python (3 年)、
- 経験が古い・少ない言語: Java、JavaScript、Go、C、アセンブラ、VB.NET、C++
- DB: PostgreSQL (3 年)、SQL Server (2 年)
- その他: Google Cloud (2.5 年)、Github Actions (2 年)、AWS (4 ヶ月)

主なプロジェクト

逆編年体式 & 抜粋

Sansan 株式会社

2022 年 9 月～現在

請求書原本取り出し機能の開発

- 概要: 請求書管理 SaaS における請求書原本をユーザーが任意に取り出せる機能の開発
- 期間: 2024 年 9 月 ~2024 年 12 月
- 規模: 6 名
- 役割: チームマネージャー、開発者
- 技術: Kotlin、React、PostgreSQL

【業務内容】

- プロセス改善 - 設計リード - 機能スコープ優先順位判断 & 削減 - チームメンバーの成長支援

【実績・取り組み】

推進における課題として、① 事業的に期日の守りきりがマストでかつ短納期 ② メンバーがジュニアメイン ③ 社内別システムとの連携 & 物理的な物質の管理が必要で状態管理が複雑、というものがあつた。ステークホルダーを巻き込んだプロジェクトマネジメントプロセスの改善（タスク状態の透明性向上）、状態不整合のリスク低減を目的として状態管理を簡素化する方向の設計見直しのリード、機能スコープの削減などを推進し、期日守りきり & 不具合なしを達成した。

運用改善プロジェクト

- ・ 概要: エンジニアの運用対応工数を削減する期限付きプロジェクト
- ・ 期間: 2023 年 12 月 ~ 2024 年 8 月
- ・ 規模: 9 名 (エンジニア 3~4 名、ステークホルダー 5 名)
- ・ 役割: 立ち上げメンバー、改善実推進のリード
- ・ 技術: Kotlin、React、PostgreSQL、Go、GoogleAppScript

【業務内容】

- プロジェクト & チームの立ち上げ提案・メンバー選定・方針とりまとめ - ステークホルダーとの意見取りまとめ・合意形成 - 運用改善施策の調査・提案・実施

【実績・取り組み】

運用負荷の高さへの組織的な不満の高まりを受けてプロジェクトを立ち上げた。その際、迅速で大胆な意思決定を行える座組 & 意思決定方針を策定。推進においては、ステークホルダー間のコミュニケーションパス & 形式の改善・プロダクトの仕様改善・運用支援ソフトウェアの改善・各種ツールや仕組みによる Toile 削減、などを提案して実現。結果として、組織全体のエンジニアの運用工数を 40% 削減した。

より詳しく知りたい場合は、詳細をまとめた[ブログ記事](#)があります。

本田技研工業株式会社

2015 年 4 月 ~ 2022 年 8 月

次世代生産管理系基幹システム開発

- ・ 概要: 次世代生産方式の企画とそれに対応した生産管理システムの開発
- ・ 期間: 2021 年 7 月 ~ 2022 年 8 月
- ・ 規模: 10 名 (社員 8 名、協力 2 名)
- ・ 役割: 企画検討メンバ、実行リーダー、開発者 → プロダクトオーナー
- ・ 技術: AWS、TypeScript (React、AWS CDK)、Python

【業務内容】

- 生産方式検討・構想 - PoC ソフト実装リード - 後進メンバーの学習支援 (5 名)

【実績・取り組み】

企画においては、次世代生産方式における管理手段とその適用範囲を提言、事業本部長に承認を得た。PoC ソフト実装においては、AWS コンサル支援のもとアーキテクチャ・サービス・設計選定をリード、目標スコープ達成までの予定期間 4 ヶ月に対し 3 ヶ月で実現。

AI による外観検査の自動化

- ・ 概要: 画像クラスタリングによる外観検査の自動化
- ・ 期間: 2018 年 10 月 ~ 2020 年 10 月

- 規模: 8 名（社員 5 名、協力 3 名）
- 役割: アーキテクト、開発者
- 技術: C#, SQL Server、Python、AI(多層パーセプトロン、One-Class SVM)、Gitea

【業務内容】 - AI アルゴリズム改良 - 仕様検討・整合、アーキテクチャ設計 - 開発者責務全般 | 実装、テスト、プロセス改善 - 外部折衝 | 期待マネジメント等

【実績・取り組み等】

AI アルゴリズムの運用性検討要員としてアサイン → アーキテクト & 実装リード → 折衝 & アドバイザー要員、と移行。アサイン後から AI アルゴリズムを学習開始し、3 ヶ月で既存アルゴリズムのチューニングを行い性能向上（正答率 95% → 98%）。技社内初のアジャイル開発パイロットチームの一員としてスクラムを実践。後期からは、人員都合によりスクラムの維持が難しくなるが、思考整理フレームワークやカンバンの導入により、チームが変化に適應できるように挑戦を主導。技術的には、モジュラーモノリスを採用した設計を推進しアジャイルなプロセスに適した柔軟なソフトウェア構造を実現。

AGV 本体制御システムリプレイス

- 概要: 内製 AGV 本稼働後の内在不具合根治を目的とした全面リアーキテクティング
- 期間: 2017 年 11 月 ~ 2018 年 8 月
- 規模: 6 名（社員 3 名、協力 3 名）
- 役割: プロジェクトリーダー、アーキテクト
- 技術: C++

【業務内容】

- 計画立案・整合・進捗管理 - アーキテクチャ設計・詳細設計、実装、結合テスト

【実績・取り組み等】

炎上後に、リーダ兼アーキテクトとしてアサイン。場当たり的な開発で複雑化したステート管理を簡素化する、という観点で再設計 & 実装をリード。それまで社内には存在しなかったソフト仕様書のフォーマットを策定 & 提案。以後は事実上の社内標準となった。

その他の取り組み

- 社内アジャイルコーチとしてチーム状況の改善支援
- 社内コミュニケーション改善を目的とした、Slack チャンネル構造設計 & 実現や会議記録自動公開の仕組み化
- プロダクトマネージャーとエンジニアの役割固着化により社内受託的雰囲気改善を狙ったプロセス改善

資格など

- Google Cloud Professional Cloud Developer (2024/1/10、[Certificate](#))

- 日商商業簿記 3 級 (2025/4/18)
- 普通自動車免許

リンク

- [Github](#)
- [Qiita](#)
- [Speakerdeck](#)

对外発表

- [エンジニア運用工数 40% 削減！Bill One における運用改善のとりくみ](#) (2024/6)
- [スクラムバンのすゝめ](#) (2023/10)

学歴

期間	学校名・学部・学科等
2006 年 4 月～2011 年 3 月	国立熊本電波工業高等専門学校電子制御工学科
20011 年 4 月～2013 年 3 月	国立熊本高等専門学校専攻科制御情報システム工学専攻卒業
20013 年 4 月～2015 年 3 月	九州大学大学院統合新領域学府オートモーティブサイエンス専攻情報制御学分野